



H・P・C 通信

学校教育目標 「ハート」「パワー」「チャレンジ」～わたしらしくあなたらしく～



「人権」について考える

12月10日は、世界人権デーです。そして、毎年12月4日から10日までは人権週間となっています。「じんけん」の意味は、一人一人が生まれた時から持っている「自分らしく生きる」権利のこと。成和小の子供たちは、日頃から道徳の学習や人権教室、その他さまざまな体験活動を通して人権について学んでいます。特に11月～12月は、人権について考える期間にしてほしいと思っています。

現在も世界のあちこちで、戦争やテロのようなことで、多くの人々が死んだり、家族をなくしたりしています。日本でも、毎日のように事故や事件で命を失う、悲しい出来事が起こっています。また、自然災害や大雨、地震や津波などの被害によってつらい経験をされた方は、そういう言葉を聞いたり写真を見たりするだけで悲しい気持ちになられます。何気なく使った言葉が、知らないうちに人を傷つけてしまうことがあるのです。

SNSで他人を誹謗中傷したり、勝手に動画を撮影・拡散したりといったインターネット上の人権侵害も深刻な問題となっています。そして、これは実際に子供たちの間でも起こっています。私たちにとって、ネットモラルの問題は、今、一番真剣に考えなければいけないことかもしれません。

人は、みんな違います。顔、体の大きさ、皮膚の色、性格、障害の有無……。これまで、どんな経験をしてきたか、どんな生活をしてきたのかも、人それぞれです。人間は一人一人が、かけがえのない命をもって、精一杯生きています。人はみな、その人らしく、人として生きる権利を持っているのです。だから、自分を大切にすることはもちろんですが、同時に、他の人の命や他の人の気持ちも大切にしながら行動しなければなりません。



唐津市人権擁護委員の皆様による人権教室

熊本県に住む小学校3年生が書いた「とびばこ」という作文を紹介します。

とびばこ

私は、体育があまり好きではありません。なぜかという、私だけなかなかできないのです。それに、みんなから笑われるのが何より悔しくていやだからです。今日の体育は跳び箱です。私はもう、逃げ出したい気持ちでいっぱいです。いよいよ私の番です。跳んでみるとやっぱり失敗です。2回目も失敗してしまいました。何回跳んでもお尻が跳び箱の角に当たってしまいます。初めは小さく聞こえていた笑い声が、どんどん大きく聞こえてきました。その時……

「笑うな！」と、大きな声が聞こえました。和人君です。体育館が一瞬、シーンと静まり返りました。私もびっくりしました。しばらくすると、「笑ってごめん」とか「がんばれ、がんばれ」、「もっと勢いをつけると跳べるよ」とか言うみんなの声が聞こえてきました。私は思いっきり走りました。そして、手を強く握りました。身体が高く浮いたと思ったその時、私は跳び箱を越えていました。やったあ、とうとうできたんだ。夢じゃないんだ。跳べたんだ。私はとても信じられませんでした。みんなの拍手が聞こえてきました。(以上一部抜粋・改編)

あなたは、笑う人ですか？「笑うな！」と言う人ですか？「頑張り」と応援する人ですか？・・・「誰か」のことではなく、自分自身のこととして考えてみましょう。



3学期につなぐ

2学期は、年間で一番長く、学習や行事が充実し、最も子供たちの成長が期待できる学期です。修学旅行やバス旅行、駅伝大会、学習発表会など、様々な体験活動を通して、自分のよさや友達によさに気づき、互いに認め合い、主体的に行動することでそれぞれの成長につなげることができました。

成和小の学校教育目標は、「**ハート・パワー・チャレンジ ～わたらしく あなたらしく～**」。1学期と同様に2学期末に、全児童対象に学校教育目標がどのくらい達成できたのかを調べるアンケートを行い、この目標を振り返ってみました。アンケート項目は、次の3つです。

- ①あなたは、じぶんのいいところを見つけ、のばすことができましたか？
- ②あなたは、ともだちのいいところを見つけ、みとめることができましたか？
- ③あなたは、じぶんのもくひょうにチャレンジすることができましたか？

アンケートの結果は下のとおりです。「自分のよさを伸ばすこと」と「友達のをさを認めること」は、少しですが1学期より良い結果に変わりました。終業式では、「3学期も、自分のよさをみつけて、もっと自分を好きになろう。」と呼びかけました。自己肯定感や自己有用感がさらに高まるよう、3学期につないでいきたいと思います。

- できた
- ややできた
- あまりできなかった
- できなかった

自分のいいところ



友達のいいところ



目標にチャレンジ



通学路について(お知らせ)

昨年度の学校便りで、丸宗公園下の道路については住宅側を通るように周知がありましたが、本年度の通学路点検(教育委員会・道路管理者・警察)で協議の結果、元通り、公園側(グリーンベルト)を通るように指導がありましたので、児童には改めて伝えています。

グリーンベルトには、車のドライバーに「安全な通学路」であることを視覚的に意識させる目的があるそうです。今後とも、保護者、地域の皆様の登下校見守りのご協力、よろしく願いいたします。



修学旅行(六年生)、バス旅行(二～四年生)に行きました。本や資料だけの知識ではなく、実際に見て、考えて、行動(体験)することで、児童の学習も主体的なものになり、実りある旅行になりました。写真は、校長も引率した修学旅行の様子です。

百聞は一見に、百見は一考に、百考は一行に如かず